

学位被授与者氏名	古藤 あずさ (ことう あずさ)
論文題目	労働力の流出と精霊信仰の衰勢に伴う焼畑稲作儀礼の変容 ～マレーシア・サラワク先住民クニャの事例より
論文審査結果の要旨	<p>これまで農学や生態人類学の分野で数多くの焼畑農耕民の研究がおこなわれて来た。この論文も、そうした生業研究のなかに位置づけられるものであり、先行研究ではこれらの論文が十分にリファアされている。</p> <p>従来の研究では、自然環境や伝統的慣習に注目がいき、経済や政治など現代的な側面が扱われることは少なかった。しかし、グローバル化が進行する現代において伝統文化もまた例外ではない。とくに本研究の調査地であるサラワク州は、焼畑農耕民の社会のなかに突如として現れた石油資本によって非常に多くの変化を被った地域であるといえる。</p> <p>東南アジア研究の中で、こうした特異的な状況におかれたクニャの人々に注目し、国際的な問題まで視野を広げて調査を進めているという点で、本研究は従来の焼畑研究にないユニークなものとなっており、グローバル社会における伝統文化の変遷の問題を扱う上で重要な論文となる。</p> <p>またサラワク大学のエレナ G. チャイ博士からは、「この地域での長期にわたるフィールド調査はマレーシアの学生でも困難を伴い、この論文は貴重なデータを提供している」というコメントをいただいた。クニャ族の村落の人々の信頼を得ることで、こうした調査を遂行した筆者の研究者としての資質も評価できるところである。</p> <p>今後のグローバル化の深化によって、こうした社会がさらにどのように変化していくのか、さらに継続した調査が必要となるだろう。また海外労働での実体に関する多分野の研究との連携も期待できる。</p> <p>本論文は、人類学や地域研究など社会科学の諸分野において非常に意義のある成果を上げており、本学の修士論文にふさわしい内容を持つものであるものと評価する。</p> <p>平成 30 年 2 月 28 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 101 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>